



森ボラ 通信

森の守護神

第46号 2006年3月20日発行

NPO法人 北海道森林ボランティア協会

札幌市中央区南2条西2丁目金市館ビル8F

Tel:241-8155 Fax:241-8308

E-mail:h-shinrin-v@indigo.plala.or.jp

URL:<http://www.geocities.jp/hokkaidoforest/>

■トピックス

◆野幌森林再生活動連絡会

2月22日(水)かでの2・7 13:30~15:00

北海道森林管理局主催の「野幌森林再生活動連絡会」に出席しました。参加13団体からそれぞれ代表が1名づつ。国有林側からも各責任者9名が顔をそろえておりました。内容は各参加団体の17年度の作業実績および18年度の作業計画の概要説明。苗木の注文方法。ニセアカシヤ対策。看板等設置。各種申請および報告書類の説明等々でした。

看板は指定された寸法で作製し、記載内容も指示どおりにするもので、各団体の責任において制作・設置します。木工チームの出番であります。(高野記)

◆石狩森林ボランティア「クマゲラ」との交流セミナー

2月25日(土)石狩市花川コミュニティセンター13:30~

当協会会員でもある関さんが代表を務める「クマゲラ」主催による森林寺子屋教室が開催されました。異なった団体が、交流・情報交換を通じて互いの課題を認識し、問題解決に向け連携しようという試みです。当協会からは10名が参加。行政側からは、石狩市農水産課と道の森づくりセンターが出席しました。

講師は当協会の酒井代表幹事と高野事務局長です。酒井さんは日本および途上国の森林問題の現状と解決のヒントを、高野さんは事務局の立場で直面する問題を踏まえてのボランティア活動の今後をテーマに講演しました。講演後のディスカッションでは、特に保険や技術講習の不備、活動効果の評価法などが話題となり、行政に協力を求める場面もありました。また、石狩・厚田・浜益の合併により、クマゲラに新たな森づくり拠点誕生の可能性についても示唆があり、クマゲラ活動の更なる広がりが期待されました。

関さんの行動力と求心力が強く感じられましたが、そこに集ったクマゲラ会員の雰囲気には、関さんの無理なくゆっくりという運営上の配慮が反映されているようにも思えました。今後も交流の機会を持ち、交流の輪を広げ、各団体一体となって行政にも働きかけて行けたらと思います。(柴田記)



◆冬芽観察-3

3月1日(水)参加12名。野幌森林公園での観察会はエゾモモンガ入林しました。気温がマイナスで雪が締まり、カンジキなしで快適アプローチしては痕跡をさがしました。雪の上が尿で黄色く汚れてずは生息の可能性ありかと思いましたが、確証はできませんでした改めてビックリ。トド山口から我々が植林現場の42林班か小班まで雪まだ1cmはありました。冬芽はだいぶ脹らみまして、芽ばえを待(高野 記)





3月1日、野幌森林公園にて冬芽観察会が実施されました。曇り空ながら暖かい日でした。トド山口から入林開始、登満別線に沿って進んだのですが興味有る発見はできませんでした。動物の足跡も乏しいもので悲しい限りです。最後に森ボラ活動区域の状況を確認したのですが、わずかに鹿の足跡を見ることが出来ました。鹿による森林の食害などは確認出来ませんでした。数日來の暖気で固まった積雪は「ツボ足」でも十分で、好きな場所へと探索できました。残念ながら、「エゾモモンガ」の痕跡は発見できませんでした。終了後のミーティングで「エゾモモンガ」の生息地は案内板の東7号線登満別線の一番接

近した中間点付近、との情報がセンターから有ったらしい。残念ながら、春らしい冬芽も見られず我々の活動場所のスノーシェルター状況を確認に向かいました。写真に有るとおり、全て雪の下。雪に圧され全ての苗木がつぶされている様で心配です。雪が固く、広い区域を一気に観察できました、夏にはこんなに簡単には森の中を歩けないので貴重な体験となりました。次は、澄川の森に挑戦したいものです。(西野(悌)記)

■ 今月の幹事会

3月13日(月)。出席者：酒井、芝、杉本(茂)、高野(豊)、西野(悌)、棟方、村上(昭)、山中

1 定期総会に向けて

人事の件 理事任期2年につき、全員改選

幹事は湊氏、加治氏退会も含め改選・補充の必要あり

戸田一夫 顧問辞退 高齢につき公職全て辞退による

日程調整 4月24日(月)15時～ リンケージプラザ

2 18年度の会費納入

3月号森ボラ通信配送に振込み用紙を同封する

総会での納付

3 年間スケジュール調整および5月作業計画の見直し

野幌植苗に参加呼びかけ→関係企業

4 撫順対応、種送り3年目(10000粒目標)だけでよいか?→中島先生と調整

5 リンゴ園

責任者：虎谷さん、出席者の把握

森ボラの木を3本とする(1万円×3本で3万円を支出)

6 法人会員勧誘の強化

関係企業に対し積極請願

7 澄川作業について

札幌市とのすりあわせの上、年次計画立案する→遊びのできる森づくり

8 平成17年度 作業計画

札幌市都市環境緑地→作製責任者：山中

北海道神宮→作製責任者：芝

9 その他

ホンデュラス経過報告

5月 みどりの羽街頭募金の件

■おしらせ

◆ 定期総会のご案内

- 4月24日(木)15時～ リンテージプラザ
15時～16時 理事会および総会準備
16時～16時45分 理事会
16時50～ 総会
平成17年度活動報告および決算報告
平成18年度活動計画および予算
役員および幹事人事

◆ 神宮活動方針(芝)

- 1 枯木、枯枝、立ち枯れ木等の処理はすべてチップ化する
特に前域林は優先順位1番で清掃する
- 2 手本舎付近の「椅子」新設、その他の場所に長椅子を新設
- 3 イチイ苗木の移植
- 4 苗畑の整理、整備
- 5 境内林補植
- 6 境外林の調査と年度作業計画作成
- 7 5月21日(日)「奉賛会植樹」実施

◆ リンゴ園との話し合い(芝)

日時：3月8日 AM11:00～11:45

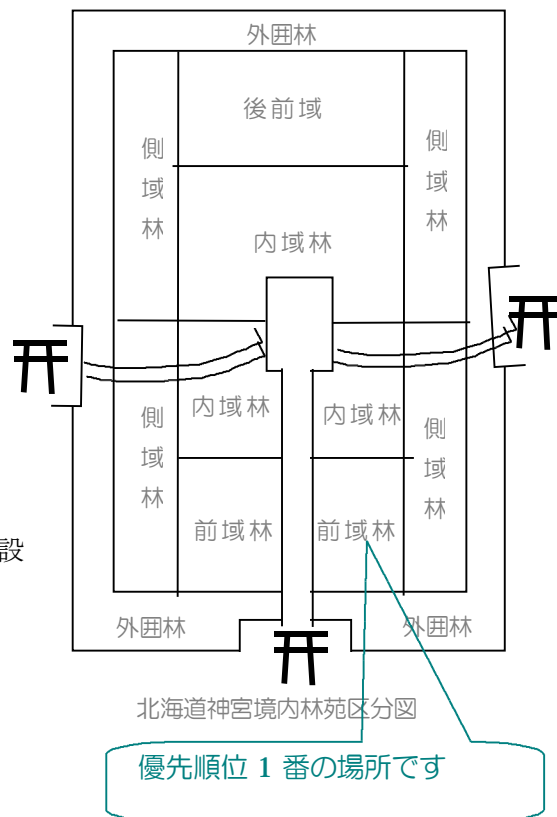
斉藤園主ご夫婦と以下の確認をいたしました。

- (イ) 老木伐採は5月中旬あたりで行う。対象木は剪定作業中に選定する。伐根まで除去したいので、チェーンソーを含め5～6人の動員が必要
- (ロ) 恒例の「リンゴの花見懇親会」を5月中旬に行う。リンゴ園作業に参加していなくても、遠慮なく参加されたし
- (ハ) 賛助会費5万円、助成金10万円を前年同様予定する
- (ニ) 年間入園日数54日を確認
- (ホ) 森ボラ会員の木を1本1万円/年で提供する用意あり

◆ 会員の動向

入会者：

退会者：笹井守、村井悦子、加治久美子、麻生昭治



■3月セミナー

3月16日(木)、参加24名。藻岩山国有林や澄川で目的の違う除・間伐を行なっているについて、間伐についての勉強を企画しました。棟方講師の懇切な講演により、聴講者一同共通認識を深めることができました。特に澄川のような落葉広葉樹萌芽林の除伐のやり方については、議論の分かれるところですから、今年の計画に反映させたいと思いました。藻岩山国有林は女性向の間伐作業ではないので、国有林でもっと樹齢の若い女性でも間伐可能な場所を選ぶ方向で国有林と調整する方向になるようです。

(高野 記)

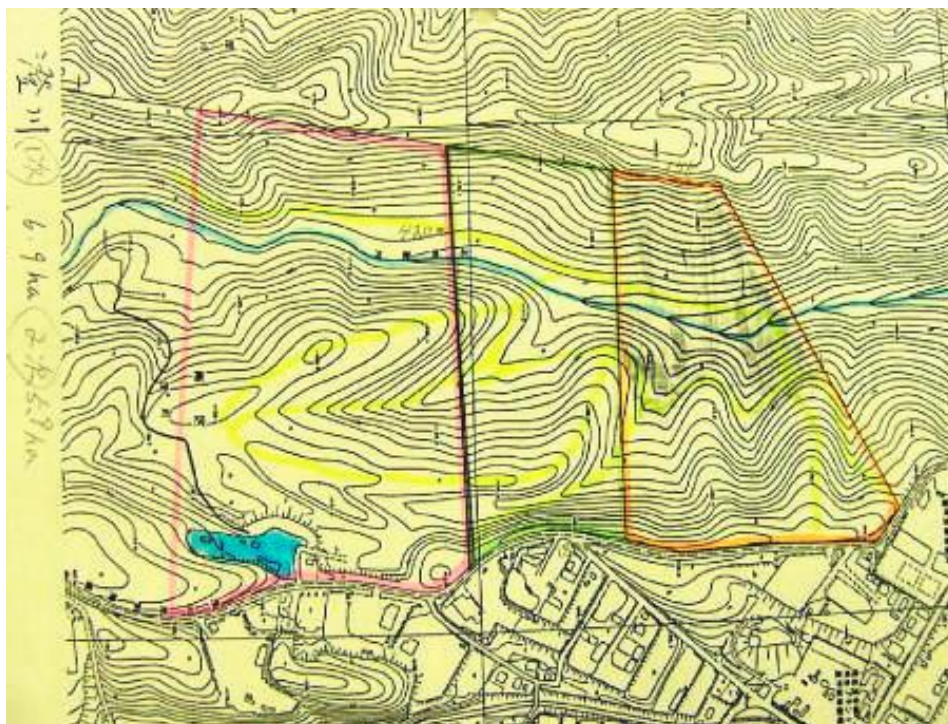


■活動履歴

活動日	場所	参加人数	活動内容
3/16	リンケージプラザ	24	間伐の効用とその方法(棟方)
3/14	杉本邸	16	巣箱製作
3/13	ラルズプラザ会議室	8	3月幹事会
3/1	野幌森林公園	12	冬芽観察会-3
2/28	杉本邸	16	バードカービング、巣箱製作
2/25	石狩市花川コミュニティセンター	10	寺子屋教室
2/21	杉本邸	14	バードカービング

■ひとこま

◆ 澄川拡張部分探査



3月18日(金)澄川の拡張部分を探査してきました。地図のピンクの部分です。左下に青く塗った部分はかなり面積がある平地で、駐車場も充分にとれる基地として使えます。前の地主もそのような用途としていたようで、バスの廃車2台を並べた物置が雪に半ば埋もれていました。尾根線を走る自動車道路に面してゲートがあり、改修して施錠するにすればよいと思われます。等高線でもわかるようにこの基地の西側

は平坦地が広く、そこにはあまり立木がありません。苗畑も出来ると思われました。

昨年かけた巣箱を点検してきました。全部ではありませんが、20個あまり外して中を調べましたが、使用されたのは唯の1個のみで、シジュウガラが使ってくれたようでしたが、写真のように孵化前に放棄された様子なので、巣立っていないと思われました。道路沿いには不法投棄の大型ゴミが目につきます。今年の巣箱は道路沿いに道から見える範囲にかけて、不使用であっても森に手入れをしていることがわかるようにしたい思いを強くしました。

黄色い線は作業道です。これらを全部整備すれば、半日コースの散策に十分に耐えるものになります。(高野 記)

